

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

(平成18・19年度 10年経験者研修)

報 告 書

プログラム名	ティーチング・ポートフォリオを活用して教科指導力を高める研修プログラムの開発
プログラムの特徴	長野市教員10年経験者研修の受講者が研修成果をティーチング・ポートフォリオに蓄積し省察しながら教科指導力を向上させる研修プログラムを、長野市教育委員会と信州大学教育学部が連携して開発する。

平成20年3月

信州大学

長野市教育委員会

I 開発の目的・方法・組織

1. 開発目的

本取組では、10年経験者研修の成果をティーチング・ポートフォリオに蓄積し省察しながら教科指導力を向上できる研修プログラムを開発することを目的とする。

本取組の対象となる研修者は、長野市立小・中学校に勤務する教職経験10年目の教諭である。長野市教員10年経験者研修の受講者は年間約35日間にわたって校内・校外での研修を進めることになるが、本取組ではこのうち教科指導に関連する研修に焦点化する。研修者は、研究授業の指導案や授業風景の映像、研修を通して開発した教材等、教科指導力の向上に関連する研修成果を、ティーチング・ポートフォリオに蓄積する。その際、信州大学教育学部に設置されたサーバを利用して、オンラインで作成する。それらを自己評価して次の課題を見いだしたり他の研修者や同僚教師と相互評価したりすることを通して、自己の教育実践を省察して研修成果をより確実にする研修プログラムである。

2. 開発の方法

長野市教員10年経験者研修の企画・実施・運営にあたっては、信州大学教育学部と長野市教育委員会が連携して行っている。なお、大学及び市教委では、それぞれ附属教育実践総合センター及び長野市教育センター教職員研修室が窓口となっている。

(1) 平成18年度の取組

<10年経験者研修のうち、本取組に関する内容>

下表は、長野市教員10年経験者研修のうち、教科指導力の向上に関する研修内容を抜粋したものである。表中の網掛け部分が、本取組に関連が深い内容である。

講座名		日数	場所
共通研修Ⅰ (春期研修)	・講座の概要、研修の進め方 ・自己課題の明確化のために ・e-Learning研修の利用方法 (e-Portfolioの作成)	1日	市教育センター
共通研修Ⅱ 「教科指導力・生徒指導力の向上」	教科指導	教科指導研修Ⅰ (授業共同参観)	1日 市内の学校
		教科指導研修Ⅱ (指導法研究)	1日 信大
	教科指導研修Ⅲ (教科専門教材研究)	1日 信大	
	生徒指導*	児童・生徒理解と対応	1日 市教育センター
共通研修Ⅲ	実践的課題の理解と対応	1日	信大
共通研修Ⅳ (冬期研修)	閉講式 ・研修のまとめ (e-Portfolioの完成)	1日	市教育センター
選択研修Ⅰ	信州大学教育学部のe-learningシステムを使って開設講座から1コンテンツを選択し、受講する。	1日	勤務校
校内研修	自己課題の追究：テーマに基づいた教材研究や指導方法に関する研修、授業改善のための研究授業による研修等を、校長等の指導助言を得ながら実施	20日	勤務校

※共通研修Ⅱ「教科指導力・生徒指導力の向上」について、平成19年度は、生徒指導（児童・生徒理解と対応）とICT活用（ICTを活用した指導力向上）を合わせて1日とした。他の内容・日程については、平成18・19年度ともほぼ同様である。

<ティーチング・ポートフォリオ作成段階>

図1に示すように、ティーチング・ポートフォリオを作成することによって、他領域にわたる自己の研修成果を蓄積することができるだけでなく、その成果を学校での教育実践において活用できる知識として体系化することができる。また、自己評価だけでなく、他の研修者や同僚教師と相互評価することによって、多様な観点から、自己の研修成果を相対化することが可能になる。

そのために、次の点について推進した。

1) ティーチング・ポートフォリオ用サーバの構築

信州大学教育学部に本取組で運用する専用サーバを導入した。これまでも、図2に示すように教員研修ポータルサイトを開設して、長野市教員10年経験者研修における情報交換やe-Learning研修に活用してきた。そこで、本取組で本格運用するために、オープンソース教育管理ソフトである「Moodle」をインストールし、教員研修講座を支援するためのLMS (Learning Management System) を構築した。そのことによって、図3に示すように、情報交換が円滑に行われるようになる。

2) ティーチング・ポートフォリオ・システムの導入と試験運用

信州大学教育学部では、教職志望学生用にティーチング・ポートフォリオ・システムを開発・運用してきている。これを、教員研修用に修正して、次年度本格的に導入できるように試験運用した。

<e-Learning 研修企画実施段階>

平成17年度の長野市教員10年経験者研修から、選択研修の1つとして、信州大学教育学部e-Learning講座から2コンテンツを選択して受講することとしている。そこで、本取組では、e-Learning講座について教科指導力向上に寄与するコンテンツを開発および既存コンテンツを活用した。

<教科指導研修I・II企画実施段階>

授業研究に関するこれらの研修(授業共同参観と指導法研究)は、教科別に3~4名程度のグループを作成した。教科については、研修者の希望をとった上で人数調整を経て決定した。研修者が教科別グループ内で1人1回(1時間)授業を実施することに加えて、同じ教科グループに属する

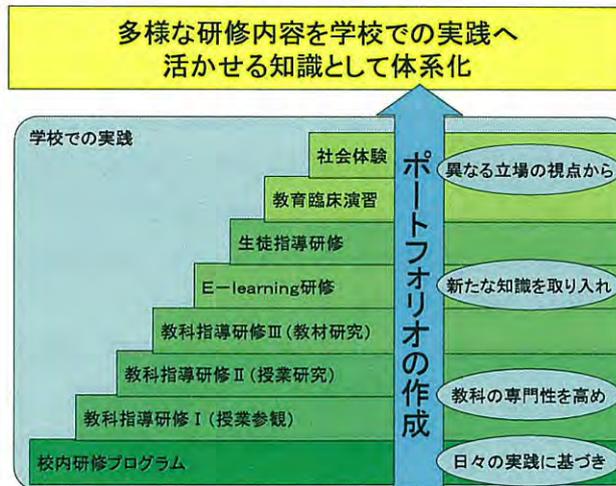


図1 ポートフォリオによる経験の蓄積



図2 教員研修ポータルサイト

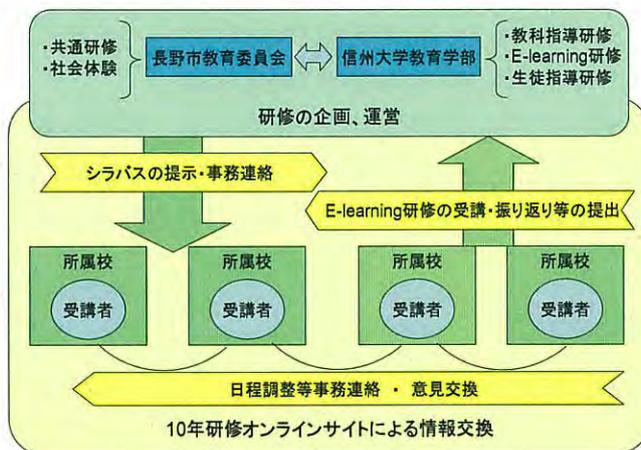


図3 ポータルサイトによる情報交換

他の研修者の授業を参観した（教科指導研修Ⅰ）。

授業当日は、授業の様子をビデオで撮影した。教科別グループのチーフが連絡を取り、教科別グループ内の参観者で1名がビデオ撮影を行うことができるように事前に担当者を決めておいた。そして、教科指導研修Ⅱ（指導法研究）において検討会で検討して欲しい事項を明確にしておいた。また、撮影したビデオから重要場面をビデオクリップとして取り込み、ティーチング・ポートフォリオに添付して閲覧できるようにした。共同参観した授業については、授業者の長所と課題をまとめた上で、教科指導研修Ⅱに参加した。

教科指導研修Ⅱでは、参観した授業を基に授業研究を行った。事前準備として、教科指導研修Ⅰの授業を基に、自己課題にそって授業を評価し、授業研究会で検討して欲しい事項をまとめておいた。そして、信州大学教育学部において開催される授業研究会に参加した。

これらの成果をティーチング・ポートフォリオに掲載し、相互評価できるようにした。

<教科指導研修Ⅲ企画実施段階>

教科内容や教材に関するこの研修では、主として信州大学教育学部の教員の専門に基づいた講義・演習・実験等を行うことを通して、教科指導力を高めることを目指した。特に教科専門科目の教育研究を担当する大学教員の講義や演習は、専門的に陥る傾向があるが、本プログラムでは、小学校や中学校の教科書に掲載されている具体的な単元や教材を用いて、教科指導力の向上に直結する内容を取り上げることが特徴である。この研修も、教科指導研修Ⅰ・Ⅱと同様、少人数による共同研修を行う中で、各自の教科指導上の自己課題を明確にしなが、より専門的で広い視野からの研修を行える講座を開設した。

受講者は、信州大学教育学部が作成したシラバス一覧表より希望する講座を選択して、自己の教科指導力を向上できる講座を選択履修した。

（2）平成 19 年度の取組

基本的には、平成 18 年度 of 取組みを踏襲している。平成 18 年度 of 開発方法に加えて、平成 18 年度に導入した 10 年経験者研修用サーバの運用を開始し、オンライン・ティーチング・ポートフォリオ・システムの本格構築を行った。

また、平成 20 年 3 月 1 日に他大学・教育委員会等の教育関係者を招聘し、基調報告とパネルディスカッションから構成される「信州大学教員研修フォーラム 2008」を開催し、本プログラムの成果の公表と合わせて、関係者との意見交換を通して、今後の課題を明らかにした。

3. 開発組織

長野市教員 10 年経験者研修の企画・実施・運営にあたっては、中核市である長野市の教育委員会が主体となって実施するようになった平成 15 年度以来、信州大学教育学部と長野市教育委員会で連携してきた。なお、大学及び市教委では、それぞれ附属教育実践総合センター及び長野市教育センター教職員研修室が窓口となって、連携をしてきている。

また、これまでも、平成 14 年度

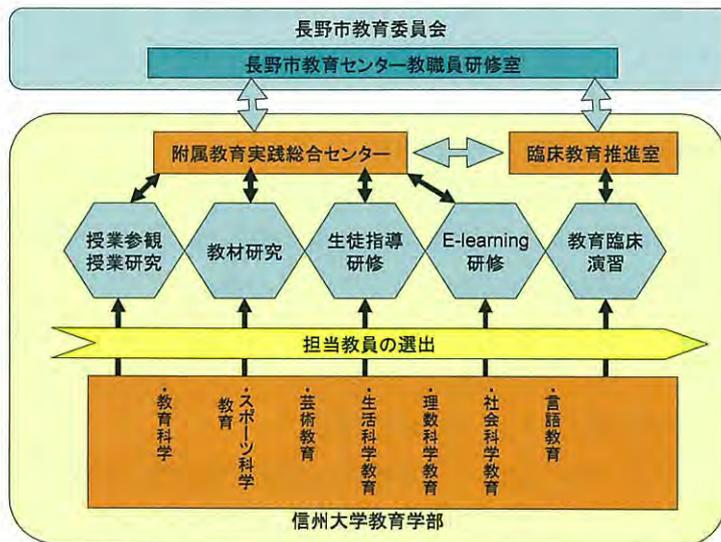


図 4 信州大学教育学部と市教委の連携体制

日本教育大学協会研究助成「現職教員を対象とした研修事業における教育委員会との効果的な連携ー長野市 10 年経験者研修における長野市教育委員会との連携を通してー」及び平成 17 年度日本教育大学協会研究助成「教育委員会と連携した現職教員研修事業用 e-Learning コンテンツ開発」により、長野市教員 10 年経験者研修プログラムを開発してきたことにより、大学と市教委の連携がなされてきており、その連携を継続し深化させながら開発を進めてきた。

II 開発の実際とその成果

1. ティーチング・ポートフォリオ・システムの概要

(1) ハードウェア

○サーバコンピュータ Dell PowerEdge 1950

(2) ソフトウェア

○オペレーティング・システム

マイクロソフト Windows 2003 Server

○ポートフォリオ・システム

シャープシステムプロダクト Interactive Study (機能強化版)

2. 長野市教員 10 年経験者研修用ティーチング・ポートフォリオの画面構成

本プログラムにおいて用いているティーチング・ポートフォリオ・システムは、図 5 のとおりである。

教科指導研修 I (授業共同参観) の実施後、3 観点 (①課題と手立て、②授業公開をしておの考察、③今後に生かしていきたいこと・検討してほしい事) から、授業の振り返りを行う。あわせて、研修者は、1 人 1 台のデジタルカメラを使用して、教科指導研修 I (授業共同参観) 時及び校内研修 (研究授業) 時に、各自の授業の様子、特に授業のポイント場面を撮影する。その 1 分程度のビデオクリップを、メモリースティックを介してティーチング・ポートフォリオに添付ファイルとしてアップロードし、自己の授業力の成長を記録し、省察する。そのことによって、受講者間及び指導者である信州大学教育学部教員と行う教科指導研修 II (指導法研究) 時のリフレクションを促進することができる。また、この教科指導研修 II (指導法研究) では、ビデオクリップに加えて、共同参観授業全体を撮影したビデオも再生しながら、個々の授業場面について授業研究を行った。

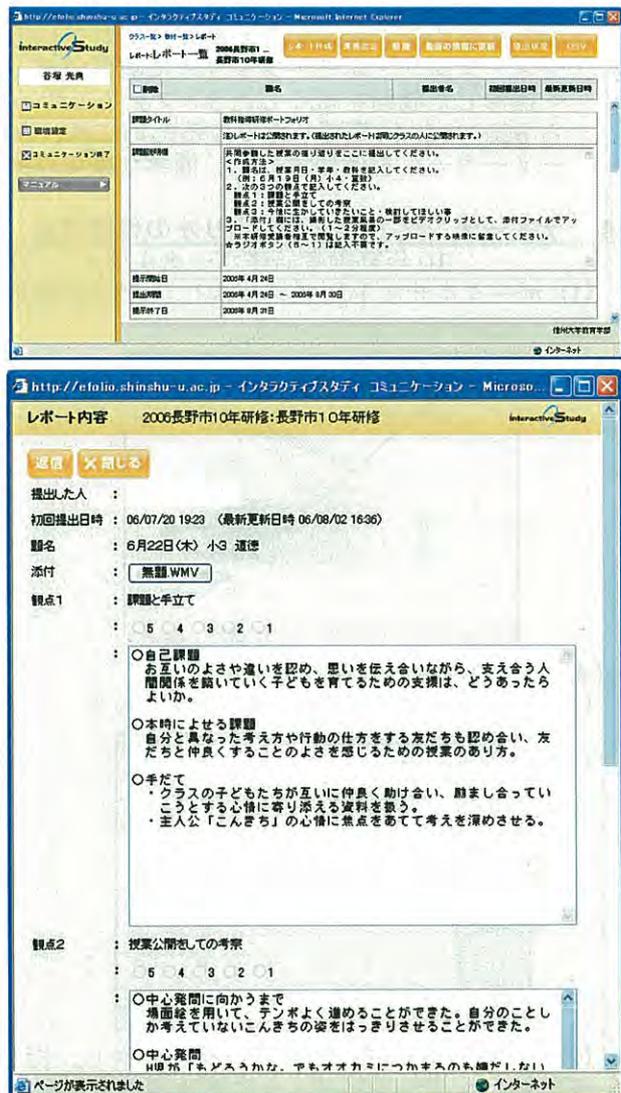


図 5 ティーチング・ポートフォリオの画面

資料 1 ポートフォリオ用デジタルカメラの貸し出しについて (研修者への配付資料)

**平成 18 年度長野市小中学校 10 年経験者研修
ポートフォリオ用デジタルカメラの貸し出しについて**

1. 目的

教科指導研修Ⅰ（授業共同参観）時に授業場面のビデオクリップを撮影し、ティーチング・ポートフォリオに添付することによって、教科指導研修Ⅱ（授業研究）におけるリフレクションを促進する。

2. 貸出期間・返却方法

教科指導研修Ⅱ（授業研究）終了までとします。

教科指導研修Ⅱ（授業研究）時に、信州大学教育学部までご持参下さい。

※一緒にお渡しするミニ DV テープ（60 分＝LP モードで 90 分撮影可能）も、教科指導研修Ⅰ（授業共同参観）時のビデオ撮影にご利用下さい。デジカメと同様に、教科指導研修Ⅱ（授業研究）時に、信州大学教育学部までご持参・ご提出をお願いします。

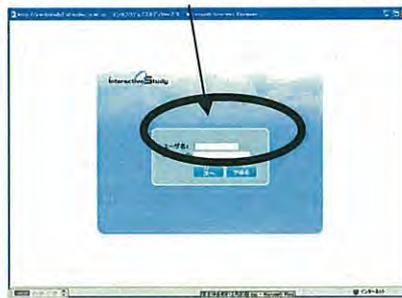
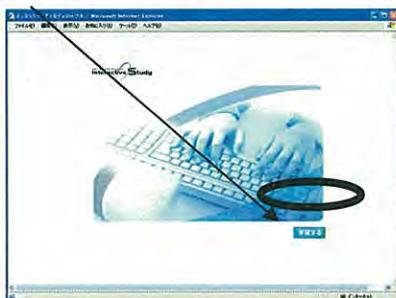
3. ビデオクリップの撮影・作成方法

- ・授業者との事前打ち合わせに基づいて、授業のポイント場面を 1 分程度撮影してください
- ・カメラの操作方法は取扱説明書をご覧ください。詳細な説明書は、次のサイトで閲覧できます。
<http://www.sony.jp/ServiceArea/impdf/manual/2673204021DSC-W30.html>
- ・学校所有のデジカメの方が操作に慣れている場合は、そちらを利用してもかまいません。
- ・ティーチング・ポートフォリオに添付（アップロード）できるのは、約 10MB までです。長く撮影した動画を短くしたり、ファイルサイズを小さくするために画面サイズを 640×480 から 320×240 に変更したりするためには、Windows (SP2) に入っている「Windowsムービーメーカー」を使用すると、簡単な編集作業が可能です。

4. ティーチング・ポートフォリオの作成方法

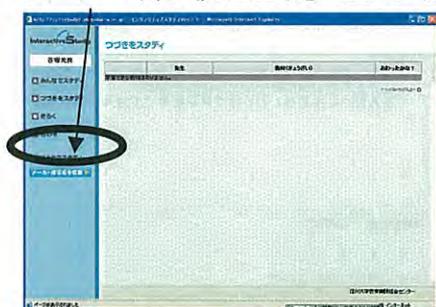
10 年経験者研修ポータルサイト「<http://eduel.shinshu-u.ac.jp/>」から

- (1) ポータルサイトにアクセスし「教科指導研修」にあるリンクから入る
- (2) 「学習する」をクリック
- (3) ユーザ名を入力（ポータルサイトと同じ）



(★ パスワードはユーザ名と同じ)

- (4) 「メール・掲示板を起動」をクリック
- (5) 提出課題の「レポート」ボタンをクリック



- (6) 「レポート作成」ボタンをクリックし、指示に従って提出（ファイルをアップロード）
- ※詳細は、ポータルサイトに順次掲載していきます。

問い合わせ：信州大学教育学部附属教育実践総合センター・谷塚 (yatsuka@shinshu-u.ac.jp)

平成 18 年度長野市小中学校 10 年経験者研修 ポータルサイトからの課題提出について

信州大学教育学部附属教育実践総合センター

10 年経験者研修ポータルサイト「<http://eduel.shinshu-u.ac.jp/>」

1. ティーチング・ポートフォリオの作成について

- まだ、自分の授業について「共同参観した授業の振り返り」を書き込んでいない方は、大至急お願いします。
- ビデオクリップを添付していない方もいますので、こちらをお願いします。
☆ 動画のサイズを小さくする方法は、同じ教科の先生方同士等で情報交換してください。
- ポートフォリオの作成（動画のアップロード）が終わりましたら、教科指導研修Ⅱ（授業研究）時もしくは教科指導研修Ⅲ（教材研究）時に、信州大学教育学部までご持参下さい。
- ◇ 参観した授業（同じ教科の他の先生の授業）について、もしよかったら、感想やアドバイス等を書き込んでいただきますと、ポートフォリオ評価の重要な要素である“相互評価”を行うことができます。一言ずつでかまいませんので、「返信」ボタンからコメントを書いていただければと思います。ご協力をお願い申し上げます。

2. e-Learning レポート課題

- 最終締切は、8 月 30 日（水）17 時に設定していますが、なるべくお早めに研修を進めて、レポートを提出していただけますようお願いいたします。（8/1 現在 4 名が提出）
- 提出時には、「レポートの書き方」と「提出方法」に御留意下さい。（特にファイル名）

3. ポータルサイトの停止予定

- 大学構内停電（電気設備の定期点検）のため、次の期間はサーバが停止します。
【9 月 8 日（金）夕方から 9 月 11 日（月）朝まで】
※ 作業状況により、復旧時刻が変更になる可能性があります。ご了承下さい。

以上です。どうぞよろしく願い申し上げます。

問い合わせ：信州大学教育学部附属教育実践総合センター・谷塚（yatsuka@shinshu-u.ac.jp）

(1) 連携を推進・維持するための要点

○連絡調整会議という正式な会議ではなくても、ある程度の日程が進んだ段階で、それまでに実施した研修の課題について、市教委及び大学の担当者間で頻繁に情報交換をして、次の研修に生かしていくことが必要である。

(2) 連携により得られる利点

○大学側は研修の実施にあたって講師を派遣するだけでなく、研修の企画・立案段階から市教委と連携を重ねることによって、大学の人材を活用した10年経験者研修を効果的に実施・運営することができる。

(3) 今後の課題等

○平成19年6月の「教育職員免許法」改正に伴い、平成21年度より教員免許更新制が導入される。10年経験者研修と連携した更新講習開設に向けての準備を進める必要がある。

IV その他

[キーワード]

授業、授業研究、授業参観、教科指導、教科専門、教科教育、省察、リフレクション

[人数規模] C. 21～50名

(補足事項:

(1) 平成18年度

1) 教科指導研修Ⅰ(授業共同参観)・教科指導研修Ⅱ(指導法研究)

国語2名, 算数・数学4名, 社会科2名, 英語1名, 家庭科1名,
図画工作・美術3名, 音楽2名, 保健体育4名, 道徳4名 計23名

2) 教科指導研修Ⅲ(教科専門教材研究)

数学3名, 家庭科3名, 図画工作・美術4名, 音楽2名,
保健体育3名, 生活3名, 総合5名 計23名

(2) 平成19年度

1) 教科指導研修Ⅰ(授業共同参観)・教科指導研修Ⅱ(指導法研究)

国語4名, 算数・数学4名, 図画工作・美術3名,
保健体育4名, 英語2名, ICT活用4名 計21名

2) 教科指導研修Ⅲ(教科専門教材研究)

国語2名, 図画工作・美術2名, 保健体育5名, 生活3名,
総合4名, ICT活用3名, 特別支援2名 計21名)

[研修日数(回数)] C. 4～10日

(補足事項:「2. 開発の方法」に詳細な日程を掲載している。)

【問い合わせ】

国立大学法人 信 州 大 学

教育学部附属教育実践総合センター

〒380-8544

長野県長野市大字西長野 6 ー口

TEL 026-238-4242(実践センター事務室)